

現役学生による就職活動報告

堤 友理

Yuri TSUTSUMI

九州産業大学 情報科学部 情報科学科

Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University

森岡 鷹駿

Takatoshi MORIOKA

九州産業大学 情報科学部 情報科学科

Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University

1. やりたいことを見つけよう (堤 友理)

やりたいことがあって、その想いを伝えることが出来れば、就職活動は順調に進むと私は考えています。しかし、私もそうだったように、はじめからやりたいことがある人なんて多くないと思います。そこで大切なのは「とにかくやってみる」ことです。今は興味がないことでも、面白さを知らないだけで、やってみたら感じ方が変わるかもしれません。面白いと思えることが見つければ、やりたいことも見えてくるのではないのでしょうか。

私が就職活動を意識し始めたのは2年生になった頃でした。特にやりたいこともなく、まだ専門科目の授業が少なかったので進みたい分野も定まっていませんでした。そんな中で就職活動の準備を何もしていないことが不安で、情報系の資格を取得することにしました。資格勉強をする中で進みたい分野が見えてくることも期待していました。しかし、試験合格のために問題をパターンで暗記するような形になってしまい、ただ履歴書に書けることが数行増えただけに終わりました。

そんな頃、授業の終わりにアプリ開発イベントのチラシが配られました。アプリ開発の経験なんて無かったので不安でしたが、就職活動に繋がるかもしれないという期待から、友達を誘って参加してみました。何もわからない状態での開発に苦労する中で、その分新しく学ぶことがたくさんあるという面白さを知ることができました。一方で、初めてのチームでの取り組みだったこともあり、メンバー間のコミュニケーションが上手いかずに最後までやり遂げることができませんでした。悔しい思いもありましたが、手を動かして実際に挑戦することで技術以外にも学べることがあると感じ、これを機に「とにかくやってみる」ようになりました。

その後、2年生の終りに先生からネットワーク構築を経験出来るイベントに誘っていただきました。ネットワ

ーク構築の経験なんて無かったので不安でしたが、これも何か得るものがあるはずだと思い、参加してみました。初めてネットワーク機器を設定し、その機器が会場のネットワークを構成する一部として働く姿を見て、インターネットの中を覗きこんだような感覚に興奮しました。また、インターネットを支えているネットワークエンジニアの方々がとても格好良く見えました。これをきっかけにインターネットやネットワーク業界に興味を持つようになり、3年生の始めにはネットワーク系の研究室に入りました。

それから就職活動が始まるまでの約1年の間にも、ネットワーク以外にセキュリティ系のイベントや芸術学部との共同制作など様々なイベントに参加しました。中には自分に合わないと感じるものもありましたが、それも自分のやりたいことを整理する材料の一つとなり、ネットワーク業界に進みたいという自分の気持ちを再確認しました。

そうして、4年生になった頃には、インターネットを支える一員になりたいという強い想いを持って就職活動に挑むことができました。面接では、文章を暗記して話すのではなく、会話をすることで自分の想いややりたいことを伝えるということを意識して、自分らしく話しました。その結果、第一志望の企業に合格することができました。

就職活動を終えて、私が伝えたいことは、「とにかくやってみる」という姿勢が大切だということと、やると決めたことには一生懸命に取り組んで意味のあるものにするべきだということです。もし、それでやりたいことが見つからなかったとしても、その姿勢や行動力は評価していただけたと思いますし、その経験は自分の財産になると思います。

著者紹介

堤 友理 (つつみ ゆり)

平成 25 年 3 月 福岡県立博多青松高等学校卒業
平成 29 年 3 月 九州産業大学情報科学部情報科学科
卒業見込み 下川研究室所属
NTT コミュニケーションズ(株) 内定

2. 私の就職活動 (森岡 鷹駿)

私は九州地方ではなく、中国地方の島根県から九州産業大学に進学した学生です。就職については、1 年次の講義であるキャリア形成基礎論を受講するまでは特に考えることもありませんでした。しかし、受講してからは少しずつ地元で就職することができれば、と考えるようになっていきました。その一方で、「まだ 1 年生だし、そんなに深く考えることもないだろう。」と思い、どのような職種に就きたいかということについて考えることはありませんでした。その後、3 年生の時に就職に関するアンケートとそれを基にした面談がありました。その時に、地元に戻って就職したいかどうかを聞かれ、「決して都会だと言えるようなところではないし、もしかして就職に関する情報が無いのではないか」と思いながらも地元に戻って就職をしたいことを伝えました。すると予想通り、島根県での就職に関する情報はあまりないと言われたのを覚えています。この時、ふるさと島根定住財団というところに学生登録を行うことによって島根県での就職に関する資料を送付してもらえると高校卒業時に聞いていたことを思い出し、資料の請求を行いました。しかし結局、資料の請求をただけでその資料の中をじっくり読んだのは 4 年生になってからでした。まだ自分たちの就職活動までは約 1 年の期間があり、面談でも多少大げさに言われているだけなのではないか、と考えていたためです。就職について考えなければならぬ時期に近づきつつあるというは分かっているけれども、就職をするということがどこか漠然としており、あまり向き合いたくないと思っていたこともこういう考えをしてしまったことに関係があるかもしれません。そして 4 年生になりキャリア支援センターに何度も出入りするようになってから、島根県での就職に関する情報が本当にはほとんど存在しないということを感じました。実際にキャリア支援センター内で私が見つけたものとしては、掲示してあるものが 1 件、パンダーに挟んであるものが

4 件程度しかありませんでした。合同企業説明会についての告知に関しても、同じ中国地方の他県については掲示してあることがあったのですが、島根県については見たことがありませんでした。4 年生になると色々な就職情報を得ることのできるリクナビやマイナビなどのサイトに登録をします。しかし私の場合はすでに島根県で就職を行うという考えを固めていたので、そういった全国的に就職情報を集めているサイトよりも、ふるさと島根定住財団が管理をしている島根県内の就職情報を集めたサイトを主に活用していました。そのサイトではリクナビやマイナビに載っていない地方に根づいた中小企業の情報が得られるというのもありましたが、リクナビやマイナビに載っている島根県の企業であっても、そのサイトに掲載されている情報量の方が多かったからです。島根県で開催される合同企業説明会については、距離や費用のことなど色々大変なこともありましたが、請求した資料や就職情報サイトを見ても手に入らない情報を得たり、企業の人へ質問をしたりもできたので、できるだけ都合をつけて訪れるようにしていました。そして努力が実り、希望の企業から内定を頂くことができ、就職活動を終わりました。

いろいろと書きましたが、キャリア支援センターをうまく活用することはもちろん、合同企業説明会に行くこと、全国版の就活サイトだけではなく各自治体が独自で管理している就職サイトも利用することなどが私自身の就活の成功につながっていると思います。キャリア支援センターは履歴書の添削をして頂いたり、面接の個人練習が行えたりするなど便利な場所ですし、企業説明会が県外で行われる場合に交通費を補助してくれる制度もあります。また、企業の情報については親戚に聞いてみるのも良いかもしれません。親戚自身は知らなくてもその友人などが情報を知っていることもあります。自分たちが思っているよりも色々情報を手に入れる場所はあるので、使えるものはなんでも使っていくことが大切だと感じました。

著者紹介

森岡 鷹駿 (もりおか たかとし)

平成 25 年 3 月 島根県立大社高等学校卒業
平成 29 年 3 月 九州産業大学情報科学部情報科学科
卒業見込み 朝廣研究室所属
(株)日本ハインソフト 内定